

講義名	学習心理学				授業形態	
担当教員	池田 曜子	開講期・曜日・時間	後期 火曜日 3 時限			
		単位数	2	履修開始年次	2 年生	ナンバリング
主題と概要						
学習心理学では、「条件づけ」と「記憶」という大きな2つの流れで研究が行われてきました。本授業では、これらの重要な研究成果を具体的に提示しながら、学習心理学の基本テーマについて学びます。また、現在の学習心理学において新たな知見として加えられている認知心理学からの研究成果も随時紹介し、現実における学習心理学の応用可能性についても考えていきます。						
到達目標						
① 学習心理学の概念について理解することができる ② 過去の具体的な研究成果について理解を深めることができる ③ 各人が、自分自身の興味・関心に関連させながら学習内容を発展させることができる						
提出課題						
授業後に、毎回、Ryuka Portal にて課題を提出してもらいます。						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
授業時に提出していただいた課題内容について共有すべき内容や質問については、次週の授業の初めにフィードバックを行います。						
評価の基準						
授業後小レポート 30% 期末試験 70%						
履修にあたっての注意・助言他						
適宜、実務等を取り入れるため、できるだけ欠席しないようにしてください。 授業後、配布資料をもとに復習し、自己の理解程度を確認しておくことが必要です（不明点は、次回授業時に質問してください） 授業内容が少々高度になりますので、授業時や毎回の課題で質問できるように意識して受講することが必要になります。						
教科書						
.使用しない。						
参考図書						

その他		
講義連絡において、プリントを配布します。		
授業計画		
1.学習とはなにか：行動の学習と認知の学習 2.古典的條件づけ①：典型例、条件刺激と無条件刺激 3.古典的條件づけ②：行動の獲得と消去、汎化と弁別 4.オペラント条件づけ①：典型例、条件づけの型 5.オペラント条件づけ②：行動の獲得と消去、汎化と弁別 6.強化と行動 7.条件づけの制約 8.記憶①：短期記憶と長期記憶 9.記憶②：長期記憶の多様性、保持と忘却 10.記憶③：意味記憶とエピソード記憶 11.問題解決 12.メタ認知 13.技能学習①：学習曲線、結果の知識 14.技能学習②：練習の条件、技能の記憶、転移 15.まとめ		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
○ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間		
各授業に必要な資料を配付し説明を行います。資料を次週の授業までに熟読し、理解できない部分を明確にし、分からなかった部分について質問ができるようにしておいてください。（2時間） さらに、授業で取り扱った内容は、授業後、配布資料をもとに復習し、自己の理解程度を再確認しておくことが必要です。不明点は、次回授業時に質問してください。（2時間）		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
目標①②③を達成することで、即の「社会の仕組みや働き、日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる」に貢献できる。 目標②③を達成することで、即の実際の社会実動活動、ビジネスに積極的に活用することができる能力となる。 目標の①②を達成することで、即の「人間の精神機能と心理学の研究法に関する基礎的知識を有し、さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測することができる」に貢献できる。 この科目は心理学の基礎を学ぶものであるが、目標③を達成することで、人の心理と行動の知識を有し社会生活内で心理学を応用することは可能である。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
双方向授業は実施しない。		
実務経験の有無及び活用		
備考		